

# 平成 30 年度 教育・学生生活支援資金 寄付金活動報告書



## 教育・研究学修支援

### <TA・SAの充実>

教育開発推進センターでは、きめ細かい学修指導を行い、学修効果を高めるため、ティーチング・アシスタント(TA)及びスチューデント・アシスタント(SA)制度を設けています。TA・SAは、授業の進行、補習対応、そして学生アドバイザーとして一定数の授業を受け持ち、学生の相談に応じています。加えて、授業時間外にも専任教員と協働して、教育開発推進センターまたはインストラクター室で学修の相談に乗る体制を整備しています。情報科目、文章技法科目においては、必須要員として位置づけられており、各学科の専門科目においても、教授法・授業形態の必要に応じて配置してより効果的な学修効果を得られるように積極的に活用しています。

平成30年度は、初年次教育科目において、文章技法・文章表現力を養う必修科目「基礎技法B」では、春学期18クラス・秋学期16クラスにおいて15名のティーチング・アシスタントが支援を実施しました。

また、PC教室で実施される情報系科目の授業においてもティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントを雇用しており、平成30年度は、春学期36クラス・秋学期42クラスにおいて、7名のティーチング・アシスタントと10名のスチューデント・アシスタントがPC操作や情報処理に関する学修支援を実施しました。

### <ラーニング commons の充実>

全学的な自学自習スペースとして、ラーニング commons を7号館2階に整備しています。授業外での学生の学びの空間としてラーニング commons でPCを始めとする学修支援資材等を貸し出すなど、自主学習の促進に努めており、随時相談に応じる学修支援室での数学指導やネイティブ教員によるENGLISH SALONも開かれ、学びたい時に自主的に学べる機会を設けています。加えて、ラーニング commons には、学部生による4名の学習サポーターズが常駐しており、PC操作等のピア・サポートを行っています。

現在、図書館の他、各学科単位の学修の場である学科閲覧室を全学科に整備し、ラーニング commons 化を進めています。学科閲覧室は、図書・雑誌・PC・自習スペース等を活用でき、学生の自学自習の場となっています。例えば、表現学部では、学科フロアのPCルームや映像制作スタジオ等を学びの空間として学生に開放し、適宜、教員が授業時間外で指導する体制をとっています。また、地域創生学部においては、自主学習スペース(ラーニング commons)において、インストラクタースタッフを配置し、コミュニケーションを図れる学修環境を整備しています。



## 学生生活支援

### <教職支援センターの活動>

教職希望者には、週に一日学校現場での管理職経験者を招いて、通常の各種ガイダンス(教職課程ガイダンス、実習直前ガイダンス、介護等体験ガイダンス、教員免許状一括申請ガイダンス等々)のほか、個別の教育相談を実施しています。

平成 30 年度は、前年度からの①教科専門教養特別講座の開講、②教採全国公開模試の実施、に加え、以下の事業を新規に行いました。

- ③新入生教職課程ガイダンス(4月7日、参加151名)
- ④4年生対象小論文講座(4月11日、参加11名)
- ⑤新入生対象学習計画ガイダンス(4月20日、参加23名)
- ⑥教員採用選考受験者ガイダンス(7月10日、参加24名)
- ⑦教職支援センターDAY(9月21日、118名)
- ⑧教採模試受験者へのフォローアップ講座

また、特別講座担当講師との懇談会(8月23日)を実施した。

小学校教諭免許状取得については、これまで1年次の1月に行っていたガイダンスを4年間通した教員養成の観点から9月に実施し、小学校課程履修を念頭に置いて秋学期の学修に臨める体制にしました。

豊島区と本学の連携・協働に関する包括協定及び覚書に基づき、本年度も豊島区立小中学校に学生を派遣しました。本年度は豊島区13名、ほか北区や板橋区立の学校にも学生を送り出しました。また、1月15日に東京都教育委員会から人事部選考課職員を招いて、東京都教員採用説明会を開催し、29名の学生が参加しました。



### <就職支援>

#### ○支援体制について

本学では、3年次には、春学期中に全学生を対象に就職総合支援センターの相談員との面談を課しています。「全員面談」の実施により、進路について3年次の春学期に一人ひとりが考える機会を設けることによって、進路の準備期間として重要な3年次を積極的に過ごせるように支援し

ています。また、学科コースごとの就職課職員と就職担当教員を置き、各学科教員と連動して行えるように体制が組まれているため、学科と就職総合支援センターが就職支援に関する意見交換を行い、教職協働の好事例として双方のコミュニケーションが取れており機能しています。

また、学生の多様な就職に関する悩みに対応するために個別相談制度を設けています。就職総合支援センターの個別相談ブースにおいて1回40分の個別相談を行い、相談員はキャリア・コンサルタント有資格者や企業の人事採用担当経験者から構成されています。

## ○開講講座について

就職総合支援センターで実施している「就活支援講座」では、業界・企業、職種についての知識を深め、インターンシップ参加時に必要なマナー・身だしなみについての支援を行っています。そして、協力企業から提供された大正大学生のためのインターンシップ参加優先枠も学生に紹介しております。

就職総合支援センターでは、「就職支援講座」が15講座、「資格・公務員講座」が11講座と多岐にわたって実施しています。特に就活支援講座では、就職活動の流れや準備しておくべき自己分析や企業研究などの基本的事項を押さえ、個々の対策として、エントリーシートの書き方やSPI対策、業界別のセミナー等、テーマごとに掘り下げた講座を実施しています。

### 【平成30年度実績】

- 就職 98.8%(※就職希望者分母)
- 就職総合支援センターの利用者(延べ数)
  - 1年次10人、2年次21人、3年次2,619人、4年次1,595人
- 相談内容
  - 履歴書やエントリーシート(ES)の添削:1,421件(74.7%)
  - 面接指導:678件(21.3%)
- 夏期、冬期インターンシップ参加優先枠
  - 72社(707名)
- インターンシップ参加率(※就職希望者分母)
  - 62%(平成29年度38.6%)
- ガイダンス実施
  - 回数:72種142回実施
  - 出席者数:11,152人(延べ数)



## <多様な奨学金制度の充実>

新入生奨学制度、人材育成奨学制度、課外学習奨学制度、海外留学奨学・奨励制度、父母会奨学・奨励制度、TSR 奨学制度、藤井かよ奨学金(海外研修参加者への奨学金)があります。この他の経済的支援制度としては、学費延納制度、授業料特別減免制度、私費外国人留学生授業料減免制度を設けています。また、地域創生に貢献する意欲の高い学生に対する地域人材育成奨学金を設けており、地域人材育成奨学金受給者は、地域活性化のための教育プログラムと学生による報告会を実施しています。

### 【平成 30 年度実績】

種類			採用者数
新入生奨学制度	新入生奨学金	学部	18名
		大学院	6名
人材育成奨学制度	人材育成奨学金	学部	61名
		大学院	6名
課外学習奨励制度	課外学習奨励金		4名
	ボランティア活動奨励金		1名
	学術文化奨励金		25名
海外留学奨学・奨励制度	海外特別留学奨励金		2名
	海外語学研修奨励金		26名
父母会奨学・奨励制度	父母会修学奨励金		8名
	父母会課外学習・課外活動奨励金		1名
TSR 奨学制度	TSR 奨学奨励金		8名
	TSR キャリア奨学金		3名
藤井かよ奨学金			0名



## 地域連携・社会貢献

### <地域人材育成支援>

#### ○盆踊り

サービスラーニングという授業では、豊島区、北区をフィールドにし、鴨台盆踊りという一つのプロジェクトを通して地域の特徴や課題を考える「課題解決型学習(PBL)」を展開しています。地域をフィールドにして課題解決等を行う授業科目であり、盆踊りのターゲット設定からイベント内容企画、広報、会場設営などを行います。学生自ら地域の方々や本学教職員とコンタクトを取り、備品の手配や対外的な広報の依頼などを行い、自ら行動する力、関係者との関係構築や調整力などを養います。

平成30年度で8回目の開催となりました。7月6日、7日に開催し、大正大学生が企画したことも向けのイベントや盆踊りなどに、たくさんの地域の子どもたちから大人まで参加しました。2日間で延べ約4,000人の来場者を記録し、過去最大の盛り上がりを見せました。

